

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400089		
法人名	株式会社 萌 福祉サービス		
事業所名	初山別村高齢者グループホーム エルムの里		
所在地	北海道苫前郡初山別村字有明336番地1		
自己評価作成日	2019.1.15	評価結果市町村受理日	平成31年2月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400089-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧有明小学校跡の有効利用として初山別村が平成24年に設立した高齢者グループホームです。自然環境豊かなこの地域で、季節を感じながら入居者がゆったりとした心持ちで生活が出来ますよう取り組みを行っています。
施設周辺の環境を生かし、家庭菜園を行ったりし、ご入居されている皆様に楽しんでいただけるよう取り組んでおります。
もうすぐ丸7年となるこの施設は、地域の皆様の深いご理解のもと、活用いただけるものとなっている様に感じております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

廃校になった小学校跡地を利用して、平成24年5月に開設された鉄筋コンクリート2階建て1階部分の1ユニット(定員:9名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
地域の人々に事業所周辺の草刈りや除雪等の協力を戴いたり、家庭菜園では花植えや野菜の苗植えなど利用者・職員、地域住民と一緒に栽培するなど日常生活を通じて地域との交流や連携に取り組んでいる。また、事業所の持つ専門性を活かして、地元中学校の生徒の体験学習の受け入れや地域の清掃事業への参加など地域貢献にも取り組んでいる。役割や楽しみごとへの支援では、季節毎に七夕飾りや正月飾りの製作、焼き肉や鍋パーティの開催、ドライブ&ピクニックや外食ツアーなど一人ひとりの生活歴や力を活かしながら戸外に出かけたり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいの				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の生活を豊かにしていく為に、利用者様の生命を守る為に、どのような手段が必要か？常に問いかけながら、職員間での話し合いを行いながら、実践しその成果を確認するようにしています。	事業所独自の理念を作り、日常業務やミーティング等を通じて話し合い、その理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族とのつながりは比較的密に出来ていると評価できます。地域との関わりについては交流の場が少ない現状にあります。	地域の人々に事業所周辺の草刈りや除雪等の協力を戴いたり、家庭菜園では花植えや野菜の苗植えなど利用者・職員、地域住民と一緒に栽培するなど日常生活を通じて地域との交流や連携に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	その機会は少ない現状にあります。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議内では特に問題提起される事が少なく、事業所としての報告の場になってしまう事があります。	運営推進会議を定期的開催して、事業所の取り組み状況や地域との連携等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実績報告に行政にお伺いする場合には必ず包括支援センターと話しをする場面を持ち、入居者様についての情報提供や、待機につながるケースがないかの確認を行うようにしています。	行政担当者とは、日常業務を通じて報告や相談、助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	様々な場面で、今自分達がしようとしている事が「身体拘束につながるかどうか」を考えながら、そして他の職員との話し合いを行いながら実践するようにしています。	身体拘束廃止等の内部研修会開催で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月社内で行われている「虐待についてのアンケート」を実施しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とする場面はほぼありませんが、内容についての理解は出来ております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、説明を行った際、ご理解いただけたかの確認の為のチェックシートを使用しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート結果やご家族のご要望を聞きながら反映するようにしています。	法人独自の家族アンケートを実施して、利用者・家族等が意見や要望など言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映させるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中から出て来る意見や提案について、都度話し合いを行い、申し送りを行いながら反映されていくようにしています。	職員からの意見や要望、提案等を言い表せるよう職員アンケートを実施しており、そこでの意見や提案等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員の業務に対する意欲が低下しないよう、職員同士の関係性が良好に保たれるよう、「サンキューカード」を利用しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数の違いがあるので、経験・知識のある職員を主に手段についての相談の場面を常に持つようにしています。又、「eラーニング」での基礎的な受講・テストを毎月行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	実践が出来ていない現状です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	パートナーを中心とした関わりばかりではなく、職員全体が積極的に関わる機会を持ち、表出された不安を時間をかけずに解決できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面接・入居契約時等、ご家族様が入居に対してどのような心情であるかを考え、入居後定期的に連絡を取るようにし、ご家族様の安心につながるようになっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接や情報収集を行い介護方針指示書・計画書の作成を行っても、入居後に現状との違いが出る事が多いので、その都度必要なサービス提供を行い、介護方針指示書に反映するようになっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事ばかりを表出させず、「出来る事」を見つけ出し、それを生活の中の習慣となるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様に関わる中で少しでも変化があり、サービスとして提供する必要があった場合には、ご家族様にその経過等を説明しご理解いただけるようにしています。又、その結果についても時間をおかず報告をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会に来られるご家族・ご友人との繋がりが継続されるよう、近況等についてのご報告を行うよう努めております。	初詣や外食ツアー、花植えや野菜の苗植えを地域の人々の協力で行うなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起きないように目配り・気配りを行い、その時々に入居者様が何を想われているか、お考えを聞くように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても何かご相談があった場合には、その支援ができるようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から「どうして欲しい」との訴えを出せる入居者様・出せない入居者様がおりますので、言動を確認しながら都度把握するようになっています。	一人ひとりの趣味や嗜好、生活歴をアセスメントの実施で把握しながら、職員間で情報を共有し、本人本位の支援を検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活習慣がどのようにすれば入居後の生活でも継続されていくか工夫をしていくようにしています。その結果がどうか職員間で確認を行い、更に工夫が必要な場合にはその実践を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの言動を見ながら、日々感じられている事を把握し、職員間の申し送りの場面での報告を行うようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当のみの考えとならぬよう、ご家族からの意見・想い、職員の意見をいただきながら、介護計画を作成するようにしています。	本人・家族の意見や要望、ミーティングやモニタリングを通じて職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録情報を確認しながら、計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関わり方の柔軟性が持てるよう、日々その時々に必要なサービスで関われるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根差した施設運営が可能となるよう、地域や行政からの協力がいただけるよう、施設側からの情報発信を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医への受診が継続されるよう支援を行っていますが、入居後それが不可能な場合には、ご家族のご了解をいただき診療情報提供書を依頼し、近隣への医療機関への変更を行っています。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関との連携や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時には時間をおかず受診に繋がれるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に医療機関へ行き、現状の情報をいただくようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	医療機関で行うICに参加し、施設での受け入れが可能かどうかお伝えするようになっています。その際に施設での受け入れが難しいと医療機関側から判断された場合には、次の受け入れ先についての相談・情報提供を行うようになっています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な取り組みを行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所に指定されております。村の担当者に確認しながら災害マニュアルの見直や、受け入れについて助言いただいております。	北海道胆振東部地震(ブラックアウト含む)の経験を踏まえて、災害時等に備えた準備の見直しを実施している。また、消防署や近隣住民の協力を得ながら年2回の火災避難訓練を実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様お一人お一人の性格をきちんと把握し、どのような言葉かけ、関わり方が適しているか職員間で話し合うようにしています。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように接遇向上委員会の設置や内部研修会開催で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事に関しては決まったメニューがありますが、ご本人の嗜好や嚥下能力を考えたものとしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人の生活パターンに合わせるように心がけ、職員の手が必要な時にはサポートをするようになっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣について自立されている方のについては、それを優先するようになっています。介助が必要な方についても、色合いをみたり、気候にあった装いをしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	医療機関からの指示やご本人の嗜好を優先し、味や形態に工夫をしています。準備は職員が行っていますが、食事は一緒にし、食後の下膳やテーブル拭き等、行っていただくようにしています。	食事が楽しみなものになるよう時には外食に出かけたり、ラーメンの日や焼き肉パーティを開催している。また、献立は栄養士が作成して栄養バランスや摂取カロリー、水分・食事摂取量を把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や使用する食器等の工夫により、摂取量の確保を行っています。水分については間食時を含めた量の把握を一覧表で行うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎等につながらぬよう、食後のケアの声かけや介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意がない方については、時間を決めてトイレでの排泄介助を行っております。ご自分でトイレに行かれる方にちては見守りを行い、その時々に必要な支援を行っています。（拭き取りや後始末）	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量が少ない方については短い時間でもその機会が持てるようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	それぞれの入居者様が週2回の入浴が確保できるようにしていますが、その日に拒否があった場合には翌日してみたり工夫をしています。時間帯についてのこだわりのある入居者様については、ご希望の時間に合わせるようにしています。	週2回の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を習慣にされている方が数名おりますが、それ以外の方については、職員側から促す等の対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的・臨時的な処方について、その内容・効用について確認を行い、状態変化が見られた時には、すぐに医療機関への連絡を行ないます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「一日をただ椅子に座ってホールで過ごしている」という事のないよう、読書を促したり、多目的ホールでの運動を行うようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気に触れ、気分転換が図られるよう施設周辺の散歩や家庭菜園を楽しんでいただけているようにしています。家庭菜園については、地域の方のご協力をいただいております。	家庭菜園で花植えや野菜の苗植えなど利用者・職員、地域住民と一緒に栽培したり、季節毎に七夕飾りや正月飾りの製作、焼き肉や鍋パーティの開催、ドライブ & ピクニックや外食ツアーなど戸外に出かけたり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を出来る人は少ないですが、ご家族と相談し、小銭程度お持ちいただいている入居者様もおります。外出の際に使用できる場面が持てるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりというのはほとんどありませんが、ご本人からご希望があった際には、職員がかけるようにし、ご家族との会話を楽しんでいただくようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は毎日4回測定しています。照明については、入居者様が行動する際支障が起きぬようにしています。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は広くゆったりしており、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾り付けで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールや食堂で自由にさせていただくようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族へは、新しいものを購入するのではなく、ご自宅で使い慣れたもの・見慣れたものをお持ちいただくようお願いしています。入居後はご本人の動線を見ながら、家具の配置等の工夫をしています。	居室には、安全に配慮しながら馴染みの使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には見やすい大きさの表札、トイレがわかりやすいようルートを示すための掲示をしたりしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム エルムの里

作成日: 平成 31年 2月 6日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の皆様に認知症に対する理解を深めていただけるようにする。	地域貢献するとはどのような事なのか？他の施設での実践内容を参考にし、今一度職員間で話し合いを行って行く。	12ヶ月
2	14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他施設との交流を行う事で、自事業所のサービスの質がどうであるか考える事が出来、その向上が図られるようにする。	地域にある他の施設との関わりを持つ為にはどのようにしていけば良いか、行政への相談をしながら実施につなげるようにしていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。